

香港の貿易統計

統計部

まえがき

香港政府の作成する統計のうちで、貿易統計はもっともよく整ったものである。他にみるべき統計がほとんどないのに貿易統計だけがほぼ完備しているのは、香港の貿易港としての性格からいって当然のことであろう。

統計書としての形式的な面からいえば、香港の貿易統計は、アジア諸国では日本のそれに次ぎ、マラヤ・シンガポールと同水準にあるといつてよい。とくに、品目分類が整備していること、相手国別品目別表を品目分類の SITC 3 桁段階まで得ることができること、さらに1948年以降のデータをほぼ同一の形で入手できるので、時系列分析のために便利であることなどの点が特記できよう。

実際、香港の貿易統計を利用する場合にもそれほど大きな不便はなく、とくにその統計の形式については説明を要しないほどである。

しかしながら、統計の内容に立ち入ってその統計数字を理解しようとする場合には、香港が中継港の性格をもつために、若干注意を要する点がある。本稿では、貿易統計利用者にならぬような注意を喚起することを一つのねらいとして説明を試みる。

さらに、いま一つのねらいは、貿易統計の時間的変遷を明らかにすることによって、時系列分析のための手助けとすることである。この点は、従来必ずしも明らかにされていなかったもので、本稿

が多少なりとも統計利用者の参考になれば幸いである。

I 貿易統計書

現在の香港の貿易統計書は、Commerce and Industry Department から刊行されている *Hong Kong Trade Statistics* (月報、輸入編、輸出・再輸出編) である。この月報には当該月の貿易量と年初からの累計が記載されているので、12月号で年計を得ることができる。毎月の輸入編、輸出・再輸出編ともに表の形式は統一されており、各冊は説明の部分と、総括表、詳しい品目別相手国別表(以下ディテール表という)の部分から成っている。

このほかに毎年12月には *Supplement to Trade-Statistics (Summary Tables)* が刊行される。これは年間の輸出入額についての総括表とその年の相手国別品目別の表が記載されている。

貿易統計担当部局から公表される第1次統計は、この2種類であって、他の諸国の場合のように刊行物の種類が多くない。しかしながら、この統計書はあとにみるように形式、内容とも充実しており、利用上は何の不便、不足もない。

次に、歴史的にさかのぼって香港の貿易統計書をみてみると、その内容に若干の変遷があることがわかる。

香港の貿易統計は、歴史的にはなく1918年までさかのぼることができる。その後1940年までは、その間1925年から1930年の間中断はあったけれど

も、毎年 *Hong Kong Trade and Shipping Returns* として刊行されていた^(注1)。

その後、第2次大戦中の中断があり、戦後1948年から *Hong Kong Trade Returns* (月報) が刊行された。この書名が1953年まで続き、1954年からは前記の現在の貿易統計書となったわけである。この *Hong Kong Trade Returns* は、1952年までは文字どおり月報であって、年初からの累計は記載されていなかったため、12月号で年計を得ることはできなかった。また、1951年までのものは、その品目分類が国際連盟作成の *Minimum List of Commodities or International Trade Statistics* に準拠している。その後1952年からは SITC, Original が採用され、さらに1964年からは SITC, Revised が採用されて現在に至っている。この間の事情については、品目分類の項で詳しくふれる。

内容上でのおもな変更のもう一つは、1959年から総輸出 (total exports) を輸出 (exports) と再輸出 (re-exports) とに分けていることである。周知のように、元来香港貿易はその中継的性格を特徴としており、貿易量の大半は香港を中継して再輸出されるものであったが、1950年代末から香港での地場産業の発達などの事情により、本来の意味での貿易取引も増加する傾向が生じてきた (第1表参照)。そのため貿易統計においても、この両者を区

第1表 再輸出額の変化 (単位: 香港ドル)

年	総輸出	再輸出	再輸出の比率(%)
1959	3,277,541,452	995,413,710	30.4
1960	3,937,705,296	1,070,456,454	27.2
1961	3,930,040,758	991,008,925	25.2
1962	4,387,328,638	1,069,922,122	24.4
1963	4,991,226,637	1,160,195,000	23.2
1964	5,783,571,899	1,355,951,820	23.4
1965	6,529,563,445	1,502,762,647	23.0

(出所) *Hong Kong Trade Statistics* より作成。

分しておくことの意味が大きくなり、このような変更があったものと考えてよいであろう。

ここで、現在の貿易統計書 *Hong Kong Trade Statistics* の内容構成についてふれておく。1965年12月号をみると、輸入編、輸出・再輸出編とも次のような部分から成っていることがわかる。

(1) 説明

これは統計作成上の基本的事項について述べた「まえがき」と、相手国分類コードおよび相手国名索引、さらにおおまかな品目分類表とから成っている。

(2) 総括表

輸出入総額、相手国別輸出入額および SITC Section (1桁)、Division (2桁)、Group (3桁) 別輸出入額から成っている。

(3) データール表

品目 (6桁) 別相手国別輸出入額および数量表。

また、*Supplement to Hong Kong Trade Statistics* の構成は、(1)説明、(2)総括表は上記とまったく同一であるけれども、(3)の部分が相手国別品目別 (品目は SITC 1桁、2桁、3桁) 輸出入額表となっている。これには貿易数量についての数字はいっさい含まれていない。

日本を除いたアジア諸国の場合、品目別相手国別表は、比較的詳しい段階まで得ることができるが、相手国別品目別表はないのが普通であり、もしあってもせいぜい品目が SITC 2桁段階までである。この点は、香港の貿易統計がすぐれていると考えられる一つの理由となっている^(注2)。

ここで、1949年から1965年までの毎年の品目別相手国別のデータール表のレコード数^(注3)を示せば第2表のとおりである。レコードの数と貿易量とは、一義的関係にないのは当然であるけれども、この表をみるかぎりでは、あとに示す第2図

第2表 ディーテール・レコード数

年	レコード数	年	レコード数
1949	8,400	1958	22,828
1950	8,987	1959	41,462
1951	9,200	1960	40,706
1952	15,470	1961	44,280
1953	18,666	1962	46,440
1954	20,616	1963	47,250
1955	21,300	1964	49,306
1956	20,412	1965	54,167
1957	22,981		

(注) 貿易統計書のページ単位に10%抽出し、推定したもの。

の貿易額の趨勢に似た動きを示していることが注目されよう。

最後に、香港の場合、いわゆる貿易関連指標、たとえば貿易数量指数、貿易単価指数などの統計はいっさい公表されていないのが現状である。

(注1) R. G. D. Allen & J. Edward Ely, *International Trade Statistics*, 1953, p. 348.

(注2) 技術的な観点からすれば、貿易統計の再編集の場合、品目別相手国別表と相手国別品目別表が利用できることは、相互に数字をチェックできるので、大きな長所といえる。

(注3) ここでレコードとは、品目別相手国別の輸出入の数量・金額をいう。実際にはディーテール表の1行がレコードとなっている。

II 定義および除外品目

貿易統計作成のための原資料は、輸出入業者が Commerce and Industry Department に提出した申告書である。これをもとにして一般貿易方式 (General Trade System) で編集が行なわれている。すなわち、国境 (九竜および New Territories がつくる境界) の段階で通過する品物の流れをとらえる方式によっているので、保税倉庫にいったんはいった貨物は輸入に、そこから出るものは再輸出に計上されることになる。なお、保税工場に加工のために出入する品物の動きは、それぞれ輸出入に

計上されることはいうまでもない。

相手国の決定については、輸入の場合では最初の積出国 (the country from which the goods were first shipped) を、輸出の場合では最終の仕向国 (the last country to which the goods were shipped) をとることを原則としている。

除外品目に指定されている物資は以下のとおりであって、これらの流れは貿易統計には計上されないことになっている。

- (a) 旅行者携行品と所有物
- (b) 個人的贈与品
- (c) 商品見本
- (d) 英連邦軍軍用品
- (e) 直接通過貨物
- (f) 船用品
- (g) 魚場から直接到着した鮮魚 (再輸出されないもの)
- (h) 梱包用品
- (i) 公海から引き揚げられた物資

これらの除外品目は、貿易統計作成のための一般原則にのっとったものである。しかしながら、貿易統計に含まれているもので、品目分類の仕方が若干特異なものとして、郵便小包と小額取引の二つがある。

郵便小包 (parcel post) は、品物が不明の場合品目コード 911000 に分類されて、あたかも一つの品目のように扱われている。しかし、これは SITC, Revised でも 9110 (Postal packages not classified according to kind) として特別扱いされているので香港の貿易統計独自のものではない。

むしろ次の小額取引のほうが国際比較上問題である。1件の貿易取引が500香港ドル以下のものは、これを商品別に分類しないで、一括して品目コード 912000 のもとに計上している。このような

小額取引についての特別扱いは、マラヤ・シンガポールの場合^(注4)以外には、あまり例を見ないものである。しかしながら、これの総貿易額中に占めるウエイトはそれほど大きくないので、実際には決定的な問題は生じない。たとえば1965年には、総貿易額に占める小額取引のウエイトは、輸出で0.26%、輸入では0.1%である。

(注4) マラヤ・シンガポールの貿易統計では、小額取引(100マラヤ・ドル以下)はディーテールには含めないで総括表にだけ計上している。この点、香港の場合とまったく同様の扱いとはいえない。

III 数量・金額評価

数量単位は、「まえがき」によると、イギリス標準度量衡(British standard weights and measures)を使用し、数量は純量(net)で示されている。なお、使用されている数量単位およびメートル法への換算率は次のとおりである。

(1) 重量単位

- TON (longton)=1,061 metric tons
- LB (pound)=0.4536 kilogramme
- CWT (hundred weight)=50.8032 kilogrammes
- CARAT (carat)=0.2 gramme
- OZ (ounce)=28.35 grammes
- OZ TROY (troy ounce)=31.1035 grammes

(2) 容積単位

- CFT (cubic foot)=0.0283 cubic metre
- IMG (imperial gallon)=4.546 litres

(3) 面積単位

- SYD (square yard)=0.8361 square metre
- SFT (square foot)=0.0929 square metre

(4) 長さの単位

- FT (foot)=0.3048 metre
- YD (yard)=0.9144 metre

1000 LFT (1000 lineal feet)=304.8 metres

(5) その他の単位

- NO (number)
- 1000 (thousand)
- GR (gross)=144
- DOZ (dozen)=12
- DOZ PR (dozen pairs)=12 pairs
- DOZ RKT (dozen packets)=12 packets

次に、金額単位は香港ドルであり、金額は輸入では c. i. f. 評価、輸出では f. o. b. 評価となっている。なお米ドルへの換算の公定レートは次のようになっている^(注5)。

年	換算率(1米ドル当たり香港ドル)	
1948		3.969
1949	{ 輸入	4.359
	{ 輸出	4.389
1950~65		5.714

(注5) 1948, 1949年換算率は U. N., *Yearbook of International Trade Statistics*, 1961による。その他は香港の貿易統計書の「まえがき」による。

IV 相手国分類

1965年12月号で相手国分類体系をみると、まず世界全体を大きく地域分けして、これを最初のコード1桁を用いて区分し、さらにその中に含まれる国に2桁コードを付し、全部で3桁コードによる分類体系となっている。これは現在多くの国で採用されている方式の分類であるが、そのあとに英連邦諸国だけを抜き出して British Commonwealth としてとくに別掲しているのが特色となっている。この点はあとで述べるように、1963年以前の分類との関係を明らかにしようとする意図によるものと思われる。現在の分類体系のたいたいを示したものが第3表である。

第3表 相手国分類

コード	地域分類 地域名	地域に含まれる国の数	うち British Commonwealth の国
			数
1	North America	2	1
2	Western Europe	22	4
3	Soviet Union and Eastern Europe	8	0
4	Central and South America	30	9
5	Middle East	14	2
6	Asia	25	8
7	Africa	43	12
8	Australasia and Oceania	10	8
計		154	44

しかしながら1957年から1963年までは、世界をBritish Commonwealth (1), Asia (2), Europe (3), America (4), Africa (5), Oceania (6) に大別し、その中を2桁コードで区分する体系が採用されていた。1963年の例では、国の数は全部で113であったが、各大分類の最後には「その他」という分類が含まれている。そのため British Commonwealth, n. e. s. (その他の英連邦領) を他の諸国の貿易統計とともに共通の相手国分類にまとめようとする場合に問題が起ることになる。

以上の二つの体系に比べると、1957年以前すなわち1948年から1956年までの相手国分類は、あるいはものであった。まず、イギリスを最初に、次に英連邦諸国をアルファベット順に並べ、さらに残りの各国をアルファベット順に並べ、最初から一貫番号を付したものであった。1948年の例では、国の数は59、うちイギリスを含む英連邦諸国は14であった。

相手国分類の概略は以上のとおりであるが、ここで香港の貿易統計をながめた場合に、相手国分類との関連で、気づく二つのことを付け加えておく。

第1に、香港の貿易がある種の国に大きくかたよっていることである。いま、1965年でおもな相手国の貿易額が総額に占める比率を示すと第4表

第4表 おもな相手国

相手国名	比率 (%)	
	輸入	輸出
アメリカ	11.1	27.6
イギリス	10.7	13.9
日本	17.3	5.9
中国本土	25.9	1.1
計	65.0	48.5

のとおりである。

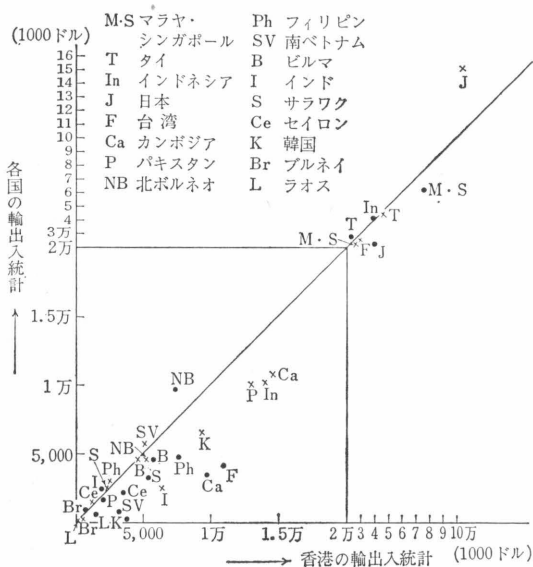
これからわかるように、中国本土、日本、アメリカ、イギリスからの輸入だけで総輸入の65%を占めている。輸出の場合には、輸入ほど集中していないが、4カ国でほぼ半分を占めている。

第2に、香港が中継港的性格をもつために、従来から指摘されていることだが、香港の統計でみる貿易額と相手国側の統計でみるそれとがくい違っていることである。

一般に、A国の統計でみるA国からB国への輸出(または輸入)と、B国の統計でみるB国のA国からの輸入(または輸出)は、(1)評価方法の相違、(2)定義の違い、(3)タイム・ラグ、(4)換算率の不斉合、(5)その他の理由、によりくい違っているのが常であるけれども、相手国側の統計からみるかぎり、中継港的性格をもつ国が消去される方向にくい違いが生じがちである。つまり、相手国側の統計は、中継港より以前のまたは先の積出国または仕向国をもって相手国としがちであるので、中継港の統計のほうが大きく、相手国側の統計のほうが小さくなる傾向が生じるからである。

いま、1961年の数字を用いて、香港のアジア各国との貿易関係を、横軸に香港の輸出および輸入をとり、縦軸に相手国側の統計による香港との輸入および輸出をとって図示したのが第1図である。単純には図中の×・印は45度線の近くに存在するはずだが、実際には相当の乖離が生じている

第 1 図



ことがわかる。また、理論的には香港を消去する力は×・印を45度線の下に動かす傾向があるはずであり、図はいくぶんこの傾向を示している。しかしながら、現在のところ作業はこれ以上のことを量的にとらえる段階になく、この解析は今後の課題となっている。

V 品 目 分 類

1948年以降の香港の貿易統計の品目分類には、大きく分けて次の三つのものがある。すなわち、

- (1) 1948~51年；国際連盟作成の Minimum List に準拠したもの
- (2) 1952~63年；国連作成の SITC, Original に準拠したもの
- (3) 1964年以降；国連作成の SITC, Revised に準拠したもの

以下、これらの品目分類体系について説明する。

1. 1948~51年

この間の品目分類の骨子になっているのは、先にふれたように国際連盟が1937年に作成した

Minimum List of Commodities for International Trade, statistics Revised である。1948年の統計に初めて採用されている分類表は、*Imports and Exports List* として1947年に発表されたものであった。これは、だいたい *Minimum List* の Section XVI に次のような変更を加えて、16 Sections (大分類), 49 Chapters (中分類), 448 Items (項目) にまとめたものであった。

(1) *Minimum List* の Section XVI

Section XVI Returned Goods and Special Transactions

451 Goods returned to the country whence exported

452 Special transactions

- a. Personal effects of travellers and migrants
- b. Samples and articles temporarily admitted
- c. Other special cases

(2) 変更した Section XVI (かっこ内の数字は対応する1952年表コード)

Section XVI Gold and Specie

Chapter 49 Gold and specie

444 Gold metal

- (a) In bars (in the form accepted in inter-bank transactions) (941010)
- (b) Other unworked gold (leaf) (941020)

445 Silver (bars or ingots) (941030)

446 Gold coins (941040)

447 Silver coins (941050)

448 Base metal coins (284011-284016)

この1948年表の各項目には1から一貫番号が付されており、これが1951年までほとんど変更を受

けることなく採用されていた。なおこの表には、次の1952年表への橋渡しが手書きで記入されているので、品目時系列は1951年と1952年の間では接続が行なわれていることになる(注6)。

2. 1952~63年

国連が1950年に SITC, Original を発表したの
で、香港でも1952年からは SITC をもとにした品
目分類を採用することになった。これは、SITC 5
桁 (item) の下にさらに1桁香港独自のコードを付
した6桁の分類体系になっているが、Section 9 の
ところに SITC がない Group 941 (Gold), Group
942 (Current notes and silver coins) が追加されて
いる点に注意を要する。というのは、この二つの
Group は一般原則では除外品目になっており、通
常の貿易額には含めないほうが国際比較上妥当な
ものだからである。しかしながら、実際の統計表に
は、これらを除いた商品貿易額 (merchandise total)
がGrand total の前に掲載されているので、これ
を用いればよいことになる。この事情はあとでみ
る1964年以降のものについても同様である。

SITC, Original による分類表は、*Hong Kong Imports and Exports Classification List* として刊行されている。1963年までの間に、1953, 1959, 1961, 1962年の各年の1月に若干の変更があり、それぞれ改訂版が作成されている。この改訂の内容は、最終桁すなわち6桁めでの修正であるので、品目別時系列作成にはそれほど大きな支障にはならないと思われる。

3. 1964年以降

国連が1960年に SITC, Revised を作成してか
ら、アジア諸国も順次これに切り換える方向にあ
り、1964年現在では大半の国がこれを採用してい
る。香港も1964年1月から SITC, Revised に準
拠した品目分類を採用している。

第5表 品目数の比較

SITC Section	1959年表		1964年表	
	SITC 5桁品目数	6桁品目数	SITC 5桁または4桁品目数	6桁品目数
0	92	184	139	268
1	9	22	12	32
2	103	166	172	221
3	13	23	24	32
4	17	20	26	31
5	42	164	196	374
6	162	350	402	597
7	63	192	145	282
8	64	188	186	412
9	5	9	10	15
計	570	1,318	1,312	2,264

(出所) (1) U. N., *SITC, Original, Revised*. (2) *Hong Kong Imports and Exports Classification List, 1959*. (3) *A Comparison of Commodity Item Code Numbers of the Hong Kong Imports and Exports Classification List for the Year 1959-1964*. 以上より作成。

この分類体系は、SITC 最終桁(4桁または5桁)にさらに1桁香港独自の分類コードを付して6桁にしたもの(SITCが4桁のものには5桁めに0を付している)で、SITC, Original の場合と形式は同じであるけれども、品目の数は1318品目から2264品目へと大幅に増加している。

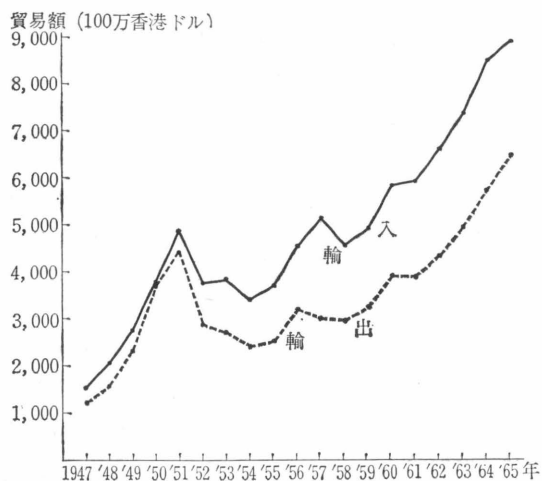
ここでも Section 9 の部分を変更しているので注意を要する。すなわち、SITC がない912 (Declarations of a value of H. K. \$ 500 or less), 999 (Gold and specie) を加え、SITC 931 を削除し、941, 951, 961をそれぞれ913, 914, 915のコードに変更している。

いま、1959年品目表と1964年品目表の品目数を比較してみると第5表のとおりである。

1964年表では、Section 8 雑製品の部分が1959年表に比べて著しく細分されている。これはあとでみるように、香港の商品別貿易構造の実情に合わせて品目分類を整えたことの現われであると思われる。

次に、SITC, Original による分類表と SITC,

第 2 図



Revisedによる分類表の接続についてみてみよう。SITC 自体でも Original と Revised とを5桁レベルで1対1に対応させることは、もともと困難であるので、SITC をさらに細分した香港の分類表の場合にも当然同じ困難が生じる。しかし、品目別時系列分析上はこのことが大きなネックにな

っているのが実情であるので、できるだけ1対1の対応をつけるように、あるいは1対1対応が無理なら、ある幅をもった品目グループで対応を明示できるような努力が実際には払われている。

Commerce and Industry Department から1964年6月に刊行された *A Comparison of Commodity Item Code Numbers of the Hong Kong Imports and Exports Classification List for the Year 1959-1964* をみると、各年の品目コードの対応が示され、1対1の対応が困難な場合には複数品目コードによる方程式で関係を示している。このような品目分類体系の断層接続のKeyが作成・公表されている国は、アジア諸国では現在のところ香港のほかにはマラヤ・シンガポールがあるだけである。

最後に、香港の貿易統計を品目別にながめた場合に気づく事がらを付け加えておく。第2図は1947年以降の香港の商品貿易額をグラフに示した

第 6 表 輸出入の品目別構成 (%)

SITC 品 目 名	1952年	1955年	1960年	1965年
輸入				
0. 食料	26.7	26.1	23.1	22.8
1. 飲料	2.3	2.1	2.0	2.4
2. 食用に適さない原材料	15.2	14.9	11.7	10.3
3. 鉱物性燃料, 潤滑油, 関連品	3.5	3.6	3.4	3.2
4. 動物性および植物性の油脂	4.0	1.6	1.1	0.7
5. 化学製品	10.8	8.8	7.9	7.5
6. 原料別製製品	25.1	30.4	32.9	30.9
7. 機械類・運搬用機器	5.3	5.7	10.2	13.1
8. 雑製の製品	7.1	6.8	7.3	8.9
9. その他	0.0	0.0	0.4	0.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
輸出				
0. 食料	15.1	12.0	7.9	6.3
1. 飲料	1.1	0.7	0.7	1.2
2. 食用に適さない原材料	11.7	10.7	7.9	4.0
3. 鉱物性燃料, 潤滑油, 関連品	0.2	0.1	0.1	0.4
4. 動物性および植物性の油脂	3.7	1.0	0.5	0.3
5. 化学製品	16.5	10.4	4.6	4.5
6. 原料別製製品	29.8	34.6	29.2	25.2
7. 機械類・運搬用機器	4.0	3.1	3.6	6.4
8. 雑製の製品	17.8	27.3	45.2	51.1
9. その他	0.0	0.0	0.3	0.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) Hong Kong Trade Statistics より作成。

ものである。これをみると、貿易の趨勢は輸入が輸出をほぼ一定の幅で上回る形で増加していることがわかる。

このような変動の少ない貿易の動きも、これをたとえば品目別に調べてみると、徐々にその構造を変えていることが第6表からわかる。

1952年から1965年の間に、輸入では、それほど大きな変化はないが、7. 機械製品の輸入増加傾向を知ることができる。また輸出では、8. 雑製品の

輸出が急激に伸びている。これは、第1表で示したように総輸出に占める再輸出のウエイトが減少していることを考えると、香港の著しい地場産業の発展を物語っているといえよう。

(注6) この接続作業は Commerce and Industry Department で行なわれたもので、1948年分類表に対応する1952年分類表のコードが手書きで記入されている。当研究所では、この1948年品目表原本を現地でマイクロ・フィルムにおさめてきてあるので、利用可能である。
(統計課 嵯峨座晴夫)

標準国際貿易商品分類〔改訂版〕

— 内容例示品目 —

— 研究参考資料 第103集 —

第0部 食料品及び動物

— 第00類動物(生きているもの)・第01類鳥獣肉類及びその調製品・第02類酪農品及び鳥卵・第03類魚介類及びその調製品・第04類穀物及びその調製品・第05類果実及び野菜・第06類糖類及びその調製品並びにはちみつ・第07類コーヒー、茶、ココア、香辛料及びこれらの製品・第08類飼料(粉碎していない穀物を除く)・第09類その他の調製食料品—

第1部 飲料及びたばこ

— 第11類飲料・第12類たばこ—

第2部 食用に適しない原材料(鉱物性燃料を除く)

— 第21類原皮及び毛皮(仕上げをしていないもの)・第22類採油用の種、ナット及び核・第23類生ゴム(合成ゴム及び再生ゴムを含む)・第24類木材及びコルク・第25類パルプ及び紙・第26類織物用繊維(糸及び織物を除く)及びそのくず・第27類肥料(精製していないもの)・第28類金属鉱及び金属くず・第29類その他の動物性又は植物性の原材料—

第3部 鉱物性燃料、潤滑油、その他これらに類するもの

— 第32類石炭、コークス及びべん炭・第34類天然ガス及び製造ガス・第35類電力—

第4部 動物性又は植物性の油脂

— 第41類動物性油脂・第42類植物性油脂・第43類動物性又は植物性の加工油脂及びろう—

第5部 化学工業生産品

— 第51類元素及び化合物・第52類鉱物性タール及び石炭、石油又は天然ガスから作った粗製・第53類染料、なめし剤、顔料、塗料及び充てん料・第54類医薬品・第55類精油、香料、化粧品、洗剤及びみがき料・第56類肥料・第57類火薬類・第58類人造プラスチック・第59類その他の化学工業生産品—

第6部 原料別製品

— 第61類革及びその製品並びに毛皮・第62類ゴム製品・第63類木製品及びコルク製品(家具を除く)・第64類紙、板紙及びこれらの製品・第65類織物用繊維の糸、織物及び繊維製品・第66類その他の非金属鉱物製品・第67類鉄鋼・第68類非鉄金属・第69類その他の金属製品—

第7部 機械類及び輸送用機器類

— 第71類機械類(電気機器を除く)・第72類電気機器・第73類車両、航空機及び船舶—

第8部 雑製品

— 第81類室内衛生用品、暖房器具及び照明器具・第82類家具・第83類旅行用具、ハンドバッグその他これらに類するもの・第84類衣類・第85類はき物・第86類光学機器類、医療用機器、精密機器類、写真用又は映画用の材料及び時計・第89類その他の雑製品—

第9部 特殊取扱品